

特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会  
2024 年度通常総会

議案書

日時:2024 年 6 月 14 日(金)19 時～  
開催方法:オンラインシステム「Zoom」にて開催

開会

総会

1. 定足数の確認、議事録署名人の選出
2. 議長の選出
3. 議案審議
  - 第 1 号議案 定款変更(p.3)
  - 第 2 号議案 2023 年度 事業・活動報告(p.4 )
  - 第 3 号議案 2023 年度 収支決算報告(p.19)
  - 第 4 号議案 2024 年度 事業・活動計画(p.27)
  - 第 5 号議案 2024 年度 予算計画(p.33)
  - 第 6 号議案 定款変更認証申請に係わる所轄庁への提出必要書類(p.36)
  - 第 7 号議案 役員の選任と報酬(p.38)
4. 議長退任

閉会

はじめに

今、日本社会は地殻変動のように大きな変化と進化の過程にあると感じています。これまで社会のお金の流れをけん引してきた民間非営利セクターだけではなく、金融界や経済界、そして行政機関による社会のお金の流れを進化させようという新たな取り組みが多様に生まれるようになってきています。

こうした中、2023年度は、私たちにとって未来に向けていくつかの重要なチャレンジを先行投資として開始した年でもあります。長年の試行錯誤を踏まえて開発した、社会貢献教育のカードゲーム「from Me」プロジェクトや、Asian Venture Philanthropy Network (AVPN)の日本代表パートナー就任といった国際連携事業、そしてファンドレイジングの実践を積みたい団体とファンドレイザーをマッチングする「ファンドレイジング実践プログラム」など、新しい取り組みが開始した年でした。そして、コロナ禍以降、初となる対面を含めて「ファンドレイジング・日本2024 (FRJ2024)」を開催し、多くの方にご参加いただき、素晴らしい熱量のある空間を創ることができました。

また、働き方改革を進め、エコシステムの中核を担う職員の待遇の改善や職場環境に改善にも、継続して精力的に取り組ましました。

一つひとつの取り組みでは、苦勞も困難もありましたが、多くの皆様のご協力で、確実に前に進むことができましたことに、改めて感謝を申し上げます。

2024年度は、これらの先行投資的な取り組みを確実に未来の社会変化につなげていくための重要な一年であると考えています。私たちは、日本を課題「解決」先進国にするために、社会のお金の流れを進化させるというチャレンジを決してあきらめずに追求してまいります。同時に、多様な人たちの参画をより拡大させるために、高校生を Chief Future Officer (CFO) に迎え、若い世代の参画を促進していきます。

引き続き皆様とともに、一歩ずつ社会を進化させてまいりたいと思います。

2024年6月

特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会  
代表理事 鵜尾雅隆



## 第2号議案 2023年度 事業・活動報告

### 2023年度ハイライト

- FRJ2024での4年ぶりの対面イベントの開催
- ファンドレイジングの実践を積みたい団体とファンドレイザーのマッチングを行い、実践体験を提供する「ファンドレイジング実践プログラム」の展開開始
- カードゲーム「from Me」の企業、学校等への提供、ファシリテーター育成の本格展開
- AVPN 日本代表パートナーとしての始動、韓国財団との協働による「アウトカムファンド for IMM」のスタート等、海外と連携した事業を開始

2023年度、日本ファンドレイジング協会は、上記ハイライトに掲げるようないくつかの新しい事業のチャレンジを行ってきた。そのどれもが協会が目指す寄付・社会的投資が広がる社会の中でのエコシステムが広がっていくための新しい取り組みであり、確実な前進となった。

一方で、コロナ禍開けの社会での動向を十分に読み切れなかったことによるいくつかの目標の未達や、プロジェクトの展開スピードが思ったほど伸びなかったことにより、最終的に収支目標が未達となった。ここでの学びは協会として真摯に向き合うべき課題と認識している。

各事業の新しい取り組みの中で育まれた国内外での新たな連携は、エコシステムの発展における次の一步への大きな足がかりとなりと考える。

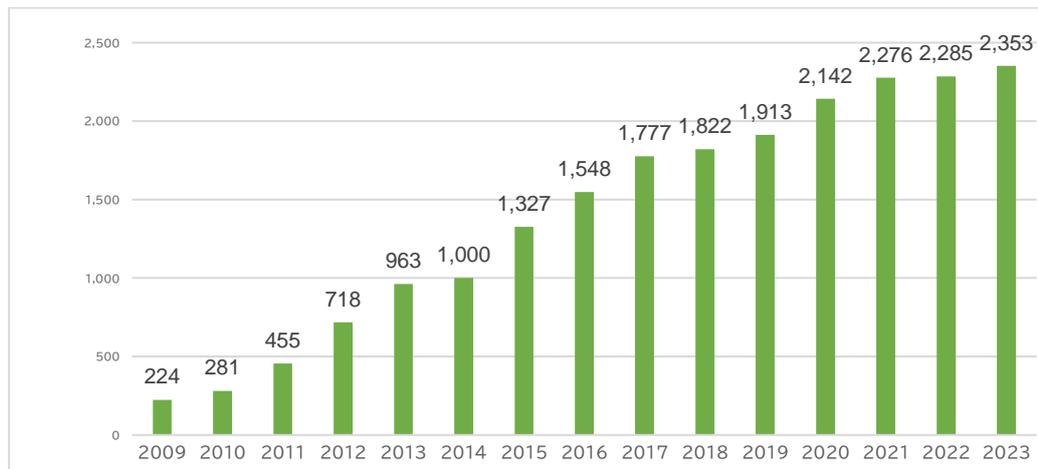
### ◇数字で見る日本ファンドレイジング協会の成長

#### ・会員数の推移

ご賛同いただいている会員数も継続的な成長を実現している。

(個人会員:2,288名、法人会員:65団体)

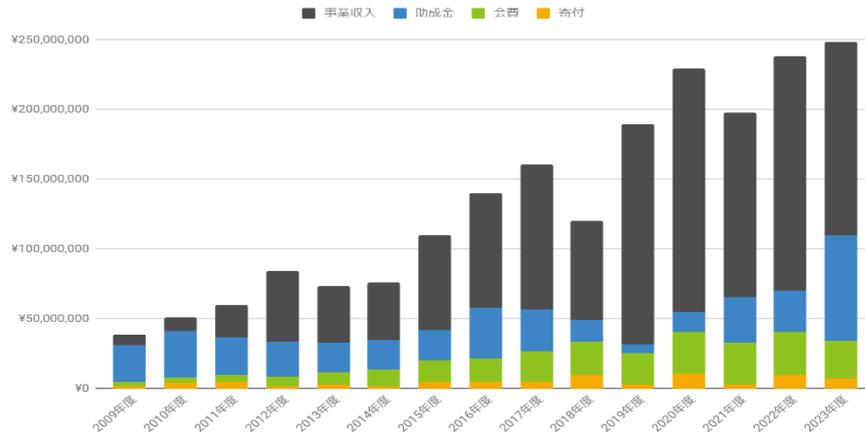
#### <会員数の推移>



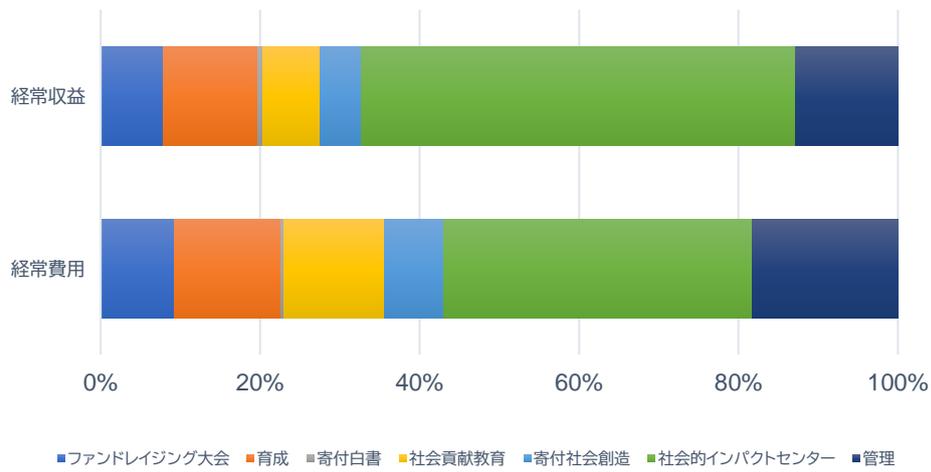
#### ・事業業績(詳細については19頁からの決算表をご参照ください)

2023年度は新規事業による助成金の増加、また、省庁からの受託案件が収益の増加に貢献している。一方、新プロジェクトへの投資予算、研修、大会の参加者数の目標未達等の要因のため、最終的な収支は赤字を期することとなった。

### <収益の推移>



### <経常収益、経常費用事業別分布>



## ファンドレイジング・日本(FRJ2024)事業

### ◇2023 年度目標

- 学びと発表の場でありコミュニティのつながりを作り深める場としての FRJ を、対面、オンラインの両面から考え、実現する。
- 仲間とつながり、学び合う価値が享受でき、偶発的な出会いと新しいアイデアが創出される場として FRJ が機能していること。
- FRJ の場で、新しいプレイヤーが見いだされ、評価され、成長していく循環をつくる。

### ◇実績

- 第 14 回目となる FRJ2024 は「ファンドレイジングは新時代にいけるか」をテーマに、40 日間にわたり、対面イベントとオンデマンドを融合する形態で開催した。(開催期間:2024 年 2 月 21 日~3 月 31 日)
- 対面イベントは TOC 有明コンベンションホールにて開催、オンラインセッションはオンラインイベントプラットフォーム eventos 上にて開催。
- 4 年ぶりとなる対面イベントでは 26 セッションを展開、オンデマンドセッションでは 47 本のセッションが公開され(総視聴数は過去最多の 9,457 回)、登壇者は合計 141 名となった。日本全国、そして海外から、FRJ2024 への参加者数は総計 1,169 名となり、協賛・出展パートナー28 社・団体、後援パートナー15 社・団体、そして 41 名のボランティアスタッフにご支援いただいた。

### ◇課題

- 参加者の対面イベント、オンデマンドの志向性の分析と、それぞれの価値の明確化と訴求を行っていく必要がある。
- チャレンジを共有し、新しい価値を生み出す期待感の湧く場の提供。
- 対面イベント開催継続に当たっては、徹底した運営の効率化、そして事業としての収益構造の改善が必要となる。



オープニングセッションには経済同友会代表幹事 新浪剛史氏、インパクトスタートアップ協会代表理事 米良はるか氏、全国子ども食堂支援センター・むすびえ 代表理事 湯浅誠氏が登壇。社会課題解決を目指し、セクターを越えた協働が急速に進む様子が語られた。



1, 169 名が参加した FRJ2024 の開催レポートはこちら。

<https://jfra.jp/news/51081>

### ◇2023 年度目標

- ・ 「認定ファンドレイザー必修研修のテキスト」の改訂を行い、最新のファンドレイジングの手法や知見を取り入れる。
- ・ ラーニングシステムを徹底活用し、一人ひとりのニーズに応じた情報発信や学びの提供、つながりの提供を通じて、ファンドレイジングの実践をサポートする。
- ・ ファンドレイザーが組織や社会にもたらす成果やロールモデルを可視化し、ファンドレイザーの認知向上に貢献する。
- ・ 新たに誕生した専門ファンドレイザーをはじめとするファンドレイザーに挑戦と活躍の場を提供し、その活躍の可視化を行う。
- ・ ファンドレイジングが当たり前となり、新たなプロジェクトが自由に生まれるような環境の醸成を行う。

### ◇実績

- ・ **【認定ファンドレイザー必修研修のテキスト改訂箇所の選定(2024 年度に改訂版公開予定)】**  
2024 年度に改訂版の公開を予定し、改訂箇所を特定。改訂にあたっては、普遍的な知識と共に、最新のファンドレイジングの手法や知見を取り入れるため、社会の流れやトレンドを踏まえた追記や最新動向や具体的事例を丁寧に選定した。これにより、ファンドレイザーの実践に役立つ、より包括的で使いやすいテキストの改訂を目指す。
- ・ **【第 8 期ファンドレイジング・スクールの開講】**  
ファンドレイジング・スクールに、31 名が入学した。そのうち 5 名は、スクールアルムナイからの寄付を原資とする 35 歳以下の若い世代を応援する返済不要の奨学金により入学。さらに、スクールアルムナイが事務局運営やメンターとして生徒を支援し、新たなゼミ講師も加わり、ファンドレイジング・スクール生の 9 ヶ月間の学びを支援した。
- ・ **【いつでもアクセス可能で繰り返し学習できるラーニングシステムの展開】**  
ファンドレイジングの基礎を体系的に学ぶ「准認定ファンドレイザー必修研修」や各分野の専門的かつ実践的な知識を学ぶ「ファンドレイジング専門コース」の基礎コースをオンデマンド化し、受講機会の制限や受講ニーズへの対応の課題を解消し、受講者は必要な知識を自分のペースで繰り返し学習できるようになった。
- ・ **【専門ファンドレイザーの認知を高めるため、ウェブサイトで紹介】**  
各分野で求められる専門的かつ実践的なファンドレイジングの知識を身につけ、その領域の発展を担う人材として期待される「専門ファンドレイザー」の修了者を、常設のウェブページで紹介。ファンドレイザーの存在と貢献を社会に発信し、広く認知されることを目指す。
- ・ **【公募で採択されたエコシステム・プロジェクトから新規研修やユースチャプターが誕生】**  
2022 年度の・エコシステム・プロジェクトの公募として採択されたファンドレイザーのキャリアとスキルを探求する 2 つのプロジェクトの連動企画として、寄付者との対面コミュニケーション力を鍛える「1on1 ファンドレイジング実践」研修を実施。また、若手世代のファンドレイザー同士のネットワークのニーズが明らかとなり、その要望に応える形でユースチャプターが立ち上がった。
- ・ **【団体のファンドレイジング活動を推進する割引制度の新設】**  
団体のファンドレイジング活動を促進するために、「認定ファンドレイザー必修研修」の団体割引制度を新設した。これにより、団体内で複数のメンバーがファンドレイジングスキルを高めることができ、団体のファンドレイジング活動の効果的な展開を後押しすることを目指す。

- 【団体とファンドレイザーのマッチング「ファンドレイジング実践プログラム」が始動】**  
 本格的な活動資金調達を目指す団体とファンドレイジングの実践を求めるファンドレイザーを相互に結びつける新しいプログラム「ファンドレイジング実践プログラム」が始動した。5つの非営利組織・ソーシャルベンチャーが参加し、各団体2～3名のファンドレイザーがチームとなり、団体が目標とするプロジェクトを支援した。当プログラム参加により、団体は組織全体での持続的なファンドレイジング推進力を得ると同時に、ファンドレイザーは準備から実践まで一貫して取り組むことで実績を築いた。

◇課題

- 【ファンドレイジングニーズに応える、実績と信頼を積むファンドレイザーのためのサポート】**  
 社会課題への対応やプロジェクトの実現に向けて、資金調達の必要性が増し、団体のファンドレイジングニーズが増加している一方、知識を習得したファンドレイザーがファンドレイジングの経験を積む機会は不足している状況。その原因を明らかにすることと、団体側・ファンドレイザー側ともに、ファンドレイジングを実践できる環境やそのためのサポートが必要とされている。



准認定ファンドレイザー必修研修のオンデマンド化



第8期ファンドレイジング・スクール 31名が入学



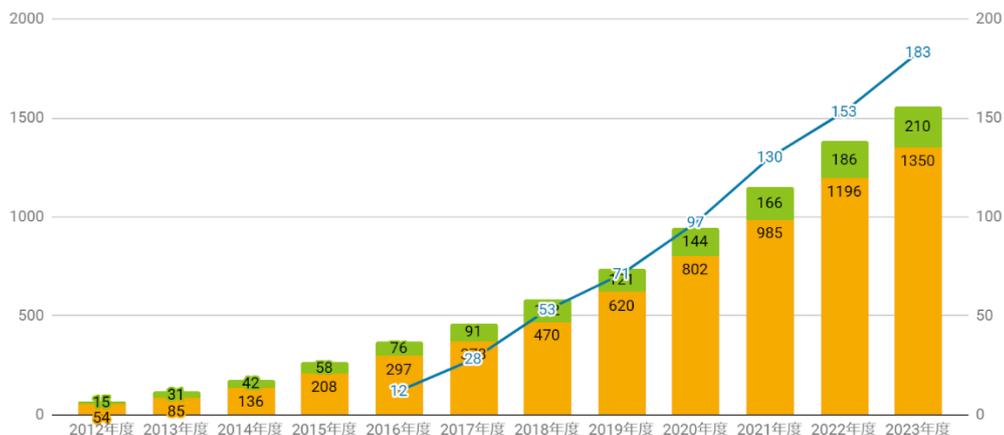
「ファンドレイジング実践プログラム」の成果をFRJ2024で発表



2022年度にエコシステム・プロジェクトとして採択された企画との連動企画として新規研修を実施

認定ファンドレイザー・准認定ファンドレイザー・スクール修了生の推移

■認定ファンドレイザー ■准認定ファンドレイザー -スクール修了生



### ◇2023 年度目標

- 寄付研究促進のための具体的な施策に着手し、実行されることにより、日本社会の中での寄付への理解が向上される。

### ◇実績

- 寄付研究促進委員会を研究者・実務家メンバーで立ち上げ、研究促進のための以下の具体的取り組みを行った。
- 日本ファンドレイジング・リサーチ大賞を新設し、研究者部門・学生部門の2部門で募集。部門ごと、最優秀賞・優秀賞・入賞を選定し発表した。
- 当協会スペシャルパートナーでもあるリタワークス株式会社と協働で、法人寄付促進のための研究会を開催し、各分野の研究者の協力のもと「企業寄付の科学エビデンス」として公開公表した。
- 研究者と実務家によるオンライン対談企画を行い、研究と実務の協働の啓発を行った。
- 「寄付白書プラス 2024」と題して、日本の最新の寄付動向の各種データに取りまとめで制作し、発信を行った。

### ◇課題

- 研究者とファンドレイザーの協働機会の創出。
- データにもとづくエビデンスの提供とその活用の促進。



コングラント株式会社と寄付研究者との協働で企業寄付を促すエビデンスを取りまとめ発表  
<https://jfra.jp/news/50747>



第1回目の日本ファンドレイジング・リサーチ大賞を発表  
「研修者部門」「学生部門」にて受賞者を決定  
<https://jfra.jp/news/50691>



### ◇2023 年度目標

- ・ 寄付カードゲーム「from Me」のポジショニングとブランディングを確立させる。
- ・ 社会貢献教育を推進する人材(ファシリテーター(FT)、教員)の拡大と質の向上を図る。
- ・ 基本教材コンテンツの学校や地域での普及による実施数の拡大をはかる。
- ・ 安定運営のための財源の仕組み化に取り組む。

### ◇実績

- ・ カードゲーム「from Me」の web サイトローンチ
- ・ カードゲーム「from Me」の実施校:24 校・40 教室・1,084 名
- ・ カードゲーム「from Me」の公認ファシリテーター104 名・体験会受講者 2,604 名
- ・ 教員版 Learning by Giving (LbG)を実施し、全国 5 地域(群馬、東京、静岡、京都、福岡)・6 校(ぐんま国際アカデミー中等部・高等部、高崎健康福祉大学高崎高校、板橋区立板橋第三中学校、富士市立富士川第二中学校、立命館宇治中学校・高等学校、福岡女子商業高校)の中高で実施。9 つの NPO に総額 130 万円の寄付を届けた。
- ・ 社会貢献教育プログラムは、これまでの累計で、181 校・492 教室・15,797 名の児童生徒に提供することができた。
- ・ 社会貢献教育ファシリテーターは、これまでの累計で、157 名、23 年度 1 年間では、22 名が新たに誕生した。
- ・ 社会貢献教育ポータルサイトでは、教材の公開など新たなコンテンツの充実を図った。

### ◇課題

- ・ プログラムの学校提供のための恒常的なチャネルの設置
- ・ 社会貢献教育プログラムの安定実施のための財源基盤の整備
- ・ 社会的機運の醸成



カードゲーム「from Me」の [web サイト](#) がオープン



社会貢献教育 [ポータルサイト](#) で教材の公開



LbG での寄付金贈呈式



LbG での寄付先決定のため生徒の対話の様子

### ◇2023 年度目標

- ・ 海外連携によるインパクト志向の新しい資金提供モデルの構築を行う。
- ・ 日本・アジアとのベンチャーフィランソロピー・インパクト投資に関するネットワークの形成を行う。
- ・ 社会的インパクト評価／マネジメントの普及と推進を行う。
- ・ 法人連携チームを通じた各部署とのシナジーの強化を行い、ファンドレイジング×社会的インパクト・マネジメントをテーマに付加価値の高い研修や伴走支援を行う。

### ◇実績

- ・ **【海外連携によるインパクト志向の新しい資金提供モデルの構築】**  
韓国 SK グループの企業財団である Center for Social value Enhancement Studies (CSES)との協働により、社会課題の解決に取り組む事業者が生み出すアウトカムに対して資金提供を行う新しいプログラム「アウトカムファンド for IMM」事業を 2023 年 5 月に立ち上げた。2023 年 11 月には、4 事業者を採択し、今後 3 年間にわたって年間最大 1,000 万円の資金提供とインパクト測定・マネジメント(IMM:Impact Measurement and Management)の伴走支援の提供を行う。
- ・ **【日本・アジアとのベンチャーフィランソロピー・インパクト投資に関するネットワークの形成】**  
2023 年 8 月より、33 の国と地域から、ベンチャーフィランソロピー・インパクト投資に関わる 600 を超える資金提供者で構成されるアジア最大のネットワークである、AVPN(Asian Venture Philanthropy Network)の日本代表パートナーとなった。2023 年 12 月の「Social Investment Forum Japan 2023」開催をはじめ、2024 年 2 月からはメンバーとの「AVPN TOKYO Visionaries' Gathering」の実施などを通じて、日本におけるベンチャーフィランソロピー・インパクト投資に関するコミュニティ構築、知見交流に取り組んでいる。
- ・ **【社会的インパクト評価／マネジメントの普及と推進】**  
「社会的インパクト・マネジメント」を普及させるためのマルチセクター・イニシアチブである、一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ(SIMI)の理事団体として、事務局運営を担うほか、金融機関・財団等を対象としたインパクトファイナンスに関する「インパクト・アナリスト研修」の企画運営、「SDG インパクト基準」研修の実施、デットにおける IMM ガイダンス策定等を実施した。また、営利・非営利組織 4 件、休眠預金活用事業の資金分配団体 8 件などに対して、社会的インパクト評価／マネジメントに関する研修・伴走支援を提供した。
- ・ **【法人連携チームを通じた各部署とのシナジーの強化】**  
法人連携チームを通じて、ファンドレイジング・事業計画策定×社会的インパクト・マネジメント研修 1 件を提供、各研修の評価を実施した。
- ・ **【調査研究の実施】**  
省庁・行政案件としては、文化庁(博物館機能強化推進事業)および経産省(「未来の教室」実証事業)を受託し、博物館・美術館等職員へのファンドレイジング研修の実施、学校独自の財源づくりのための資金調達に関する調査を行った。また日本型の社会課題解決モデルの海外展開に向けた調査研究として、こども食堂モデルの海外展開に向けた基礎調査を実施した。

### ◇課題

- ・ 当協会および社会的インパクトセンターの役割や提供価値について、特に英語情報が限定的であり、それらを分かりやすく可視化し、情報発信等を積極的に行なっていく必要がある。



「アウトカムファンド for IMM」事業を 2023 年 5 月から立ち上げ  
<https://jfra.jp/impact/>



日本・アジアにおける社会的投資市場のキーパーソンの動向や  
最先端のケーススタディを発信するべく  
12 月 1 日に Social Investment Forum を開催  
<https://jfra.jp/sif2023/>

### 法人連携

#### ◇2023 年度目標

- ・ 各分野の中間支援団体と連携し、ファンドレイジングエコシステムの構築を図る。
- ・ スペシャルパートナー、法人会員を軸として、協会との関係性を深めていく仕組みの確立を図る。

#### ◇実績

- ・ スペシャルパートナー各社との四半期に一回の戦略ミーティングの実施。またそこからの具体的な取り組みの実施(カードゲーム「from Me」の協働開催、法人寄付促進プロジェクト、FRJ の開催など)。
- ・ 法人会員への定期勉強会・交流会の開催。
- ・ B2B 案件の受託件数の増加と提供内容の幅の拡大。

#### ◇課題

- ・ パートナー制度の改善と深化。

### 広報

#### ◇2023 年度目標

- ・ ファンドレイジングの領域の幅広さや多様なキャリアの可能性を、分かりやすくかつ本質的な理解を広める。

#### ◇実績

- ・ 新聞やウェブメディアからの取材への積極的な対応と、テレビやラジオへの積極的な出演により、広範な視聴者や読者に寄付やファンドレイジングの理解を広げる活動を展開した(メディア掲載実績は、18 頁を参照)。
- ・ 寄付やファンドレイジング、社会貢献教育、インパクト投資に関連する当協会のイベントやプログラムについて、プレスリリースを配信した。これにより、社会全体に向けて情報を発信し、認知拡大と理解促進に努めた。
- ・ 当協会のオウンドメディアを通じて、イベントの紹介やファンドレイジングの事例や知見、ファンドレイジングに関する求人情報など、幅広い情報提供を行い、ファンドレイジングに関心を持つ人々に有益な情報を提供した。

#### ◇課題

- ・ 当協会の多様な事業や取り組みを広く情報発信するため、メディアとの緊密な連携やコミュニケーションツールの活用が不可欠であり、寄付や社会的投資に関する価値観やメッセージをより広く共有し、社会全体に対する影響力を拡大する取り組みが求められる。

### 会員

#### ◇2023 年度目標

- ・ 一人ひとりの会員が自由に活動や勉強会を企画できるコミュニティの土壌を作り上げる。

#### ◇実績

- ・ 若手ファンドレイザーが切磋琢磨するコミュニティ「ユースチャプター」の創設を支援し、会員向けにイバ

ント情報などを積極的に発信した。さらに、地域やテーマ別のチャプター代表との年4回の会議を通じて、チャプター間での情報共有と連携を図った(地域、テーマ別のチャプターとその代表ならびに役員等は、16頁<表1>を参照)。

- 新たなマイページシステムの構築により、会員特典の利用促進や更新手続きのセキュリティ強化と簡略化を実現した。

#### ◇課題

- 会員特典や手続きの利便性を向上させる取り組みに加えて、会員情報の安全で適切な管理を確保するために、セキュリティのリスクや脅威に対する対策を強化することが求められる。

### 総会・理事会開催

#### ◇実績

- 当協会の総会・理事会を17頁<表3,4>の通り開催した。
- 理事に担っていただく役割としての「業務担当理事会議」は毎月開催、「働き方改革担当理事会議」を適宜開催した(賞与決定時、組織改革の相談)。

### 事務局運営

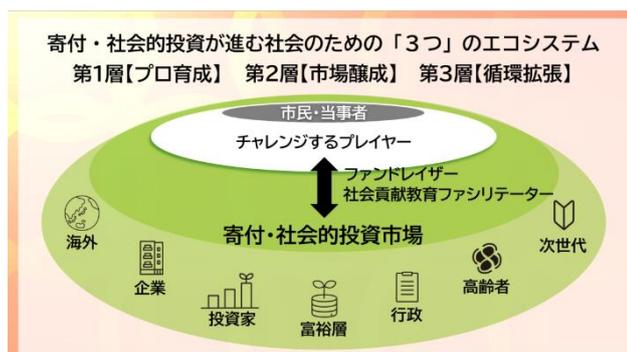
#### ◇2023年度目標

- 新・中期計画の立案。
- 組織スタッフ、TeamJFRAメンバーが、つながり助け合いながら、チームングできるような場作り、組織作りを行っていく。その上で、健全な労働環境の提供と維持を心がける。
- コンプライアンス、ダイバーシティに対応したオペレーションの実現を図る。

#### ◇実績

- 中期計画に着手し、Theory of Change2030の見直しを含め、当協会が目指す寄付・社会的投資が進む社会のためのエコシステムの健やかな成長に向けて、協会の役割、各事業との関連、ステークホルダーへの働き掛けを中心にエコシステムの三層構造を検討。2024年度からの事業計画に盛り込むと共に、2024年3月に開催したFRJ2024のオープニングセッションで公表を行った。
- 中期計画策定に当たっては、理事、職員、TeamJFRAメンバーとの対話も重視をした。
- 組織内スタッフとは定期的な対面での会議を開催し、チームビルディングに配慮した。TeamJFRAメンバーとは毎月1回オンライン会議を開催し、当協会の事業の紹介や解説のみならず、メンバー自身、そして取り組みを理解できるような構成とした。
- スタッフの職場環境調査の第2回目を実施、代表理事、事務局長、働き方改革担当理事にて対策の検討、検証を行った。実施は2024年度からの予定。

#### <中期計画で定義されたエコシステムの三階層>



◇課題

- 新中期計画の公表と、それに基づく事業の展開、トラッキングを計画的に実施する。
- 関連メンバーの心身の健康への配慮と職場環境の整備、コンプライアンスの重視は継続的に実施が必要と考える。

<表 1> 地域、テーマ別のチャプターとその代表ならびに役員等(2024年3月31日現在)

チャプター名	代表ならびに役員等(敬称略)
北海道チャプター	共同代表:奥山 大介(北海道/認定講師・認定ファンドレイザー)公益財団法人札幌交響楽団 共同代表:佐藤 ゆみ子(北海道/准認定ファンドレイザー)NPO 法人コンカリーニョ 理事 共同代表:橋本 正彦(北海道/認定ファンドレイザー)community HUB 江別港 代表 共同代表:牧 伸介(北海道/認定ファンドレイザー)一般社団法人ソーシャルコミュニティデザイン協会 専務理事
東北チャプター	共同代表:石渡 賢大(宮城県/認定ファンドレイザー)一般社団法人日本カーシェアリング協会 共同代表:小野寺 崇(宮城県/准認定ファンドレイザー) 共同代表:渡邊 桂子(山形県/准認定ファンドレイザー)NPO 法人フレーム・ラボ 代表理事
静岡チャプター	共同代表:木下 聡(静岡県/認定ファンドレイザー)フリーランスファンドレイザー 副代表:千野 和子(静岡県/准認定ファンドレイザー)公益財団法人ふじのくに未来財団
東海チャプター	共同代表:近藤 みなみ(愛知県/准認定ファンドレイザー)NPO 法人アジア車いす交流センター 共同代表:山崎 恵美子(愛知県/准認定ファンドレイザー)
関西チャプター	共同代表:岡本 卓也(京都府/准認定ファンドレイザー)有限責任事業組合まちとしごと総合研究所 共同代表:河合 将生(大阪府/認定講師・准認定ファンドレイザー)office musubime 共同代表:米原 裕太郎(京都府/准認定ファンドレイザー)
中国チャプター	共同代表:船崎 美智子(山口県/認定ファンドレイザー)ライフスタイル協同組合 代表理事 共同代表:中村 隆行(広島県/認定ファンドレイザー)特定非営利活動法人ひろしま NPO センター 代表理事
九州チャプター	代表:宮原 美智子(熊本県/准認定ファンドレイザー)一般財団法人くまもと未来創造基金
アートチャプター	共同代表:奥山 大介(認定講師・認定ファンドレイザー)公益財団法人札幌交響楽団 運営メンバー:伊藤 麻里子(認定ファンドレイザー) 運営メンバー:小室 敬幸 運営メンバー:山田 心(准認定ファンドレイザー)認定 NPO 法人芸術と遊び創造協会
全国福祉チャプター	代表:久津摩 和弘(認定講師)、日本地域福祉ファンドレイジングネットワーク COMMNET 理事長 副代表:池下 真也(准認定ファンドレイザー)鹿児島県社会福祉協議会 生活支援部 副部長 副代表:公原 寿彦(認定ファンドレイザー)愛媛県共同募金会 事務局長 事務局長:佐藤 匠 至学館大学 顧問:早瀬 昇(認定講師・認定ファンドレイザー、社会福祉法人大阪ボランティア協会 理事長 監事:相浦 圭太(准認定ファンドレイザー/税理士)税理士法人 TA パートナース 代表 監事:樽本 哲(准認定ファンドレイザー/弁護士)インタース法律事務所 代表
大学チャプター	共同代表:久保 優子(認定講師・認定ファンドレイザー・国際認証 CFRE)ワイズリンク 事務局長:長谷川 攝(准認定ファンドレイザー)日本フィランソロピック財団・国際基督教大学同窓会 会計:天尾 美花(認定ファンドレイザー)東京大学ファンドレイザー
グローバルチャプター	代表:五十嵐 豪(認定ファンドレイザー) 副代表:間辺 初夏(認定ファンドレイザー) 副代表:谷口 真菜実(認定ファンドレイザー) ボードメンバー:塚原 真琴(准認定ファンドレイザー) ボードメンバー:櫻井 祐樹(准認定ファンドレイザー)

災害対応チャプター	共同代表:上田 和孝(認定ファンドレイザー)新潟大学工学部 准教授 共同代表:永井 美佳(准認定ファンドレイザー)社会福祉法人大阪ボランティア協会 常務理事・事務局長 運営委員:橋本 正彦(認定ファンドレイザー)、community HUB 江別港 代表 運営委員:宮原 美智子(准認定ファンドレイザー)一般財団法人くまもと未来創造基金 理事 運営委員:山崎 庸貴(認定ファンドレイザー)
ユースチャプター	代表:徳永 健人(認定ファンドレイザー)READYFOR 株式会社 副代表:川野辺 雪菜(認定ファンドレイザー)フリーランス 副代表:會澤 裕貴(認定ファンドレイザー)株式会社 PoliPoli

<表 2> スペシャルパートナー

協会との協働パートナーとして寄付市場形成に向けた様々な取り組みを行ってきたスペシャルパートナー

社名	ホームページ URL
お宝エイド	<a href="https://otakara-aid.com/">https://otakara-aid.com/</a>
株式会社ファンドレックス	<a href="https://fundrex.co.jp/">https://fundrex.co.jp/</a>
リタワークス株式会社	<a href="https://ritaworks.jp/">https://ritaworks.jp/</a>
株式会社トラストバンク	<a href="https://www.trustbank.co.jp/">https://www.trustbank.co.jp/</a>

<表 3> 2023 年度通常総会

日時	出席者	附議事項/報告事項
2023 年 6 月 13 日(金) 19:00-20:30	総社員(運営会員)数 59 名 出席した社員数 35 名 (内訳本人出席 19 名、書面議決書出席 13 名、議長に委任 2 名、議長または議長が委任するものに委任 1 名)	第 1 号議案(2022 年度事業・活動報告) 第 2 号議案(2022 年度収支決算報告) 第 3 号議案(2023 年度事業・活動計画) 第 4 号議案(2023 年度予算計画) 第 5 号議案(役員の選任と報酬)

<表 4> 2023 年度開催理事会

	日時	附議事項・相談事項
第 67 回理事会	2022 年 5 月 25 日(木) 16:00-17:00	附議事項 1 : 2022 年度決算及び監事監査報告 附議事項 2 : 2023 年度通常総会議案書 附議事項 3 : コンプライアンス規程の改定、電子署名規程の新設
第 68 回理事会	2023 年 6 月 13 日(火) 20:30-20:40	附議事項 1 : 代表理事の選出
第 69 回理事会	2023 年 9 月 1 日(金) 16:00-17:00	共有・討議 1 : FRJ2024 について 共有・討議 2 : JFRA 中期計画について

第 70 回理事会	2022 年 11 月 28 日(火) 16:00-17:00	附議事項 1：ユースチャプターの設立について 共有・討議 1：JFRA 中期計画について 共有・討議 2：FRJ2024 について
第 71 回理事会	2024 年 3 月 26 日(火) 14:00-15:00	附議事項 1：2023 年度事業報告、2024 年度事業計画並びに予算計画 附議事項 2：2024 年度以降の理事会の体制について

<表 5>2023 年度コンプライアンス委員会

	日時	内容
第 3 回	2023 年 9 月 20 日(火) 11:00-12:00	・期間内の活動の報告 ・「合理的配慮」義務、について
第 4 回	2024 年 3 月 15 日(火) 13:00-14:00	・期間内の活動の報告 (合理的配慮義務に関する実施内容の報告)

◇メディア掲載実績

2024 年 2 月 21 日、22 日 特定非営利活動法人 ETIC. 「DRIVE」メディア、寄付インタビュー

2024 年1月 20 日 J-CAST ニュース「善光寺が修繕費をクラウドファンディングで募る 国立科学博物館は 9 億円集めた」

2024 年1月 17 日 読売新聞「募金もキャッシュレス決済」

2023 年 12 月 21 日 NHK 出版 NHK テレビテキスト『きょうの料理』1 月号「今できること…寄付特集」

2023 年 11 月 30 日 TBS ラジオ「荻上チキ・Session」特集「なぜ、日本では寄付文化が根付いていないのか？」

2023 年 11 月 24 日 日本金融通信社「ニッキン」カードゲーム体験会 寄付や社会貢献学が」

2023 年 11 月 10 日 ABEMA Prime「カネよりモノ？大切なのはメッセージ性？大谷翔平に学ぶ「効果的な寄付」とは」

2023 年 11 月 8 日 日本経済新聞「映画 NPO が映す社会変革 起業家、非営利パワーを手に」

2023 年 10 月 31 日 公益財団法人山梨総合研究所「NPO による社会課題解決や価値創造のために求められるもの」

2023 年 10 月 25 日 第一生命経済研究所「ウェルビーイングを実現するライフデザイン ライフデザイン白書 2024」

2023 年 8 月 19 日 読売新聞「ふるさと納税教育支援に」

2023 年 8 月 10 日 TBS「ひろおび」支援 全国で広がる様々な形 クラウドファンディング」

2023 年 7 月 14 日 NHK 総合「首都圏情報ネタドリ！」「人生が豊かに！？変わる寄付のカタチ」

2023 年 6 月 21 日 日本財団ジャーナル「世界の人の助け指数でワースト 2 位。なぜ日本は寄付文化が広まらない？専門家に聞いた」

2023 年 6 月 19 日 週刊東洋経済【第1特集】富裕層のリアル 国内 150 万世帯、受難の時代」

2023 年 5 月 1 日 公益財団法人結核予防会・機関誌「複十字」「ファンドレイジングの可能性～共感が生み出す善意の資金循環～」

# 第3号議案 2023年度 収支決算報告 活動計算書

[税込] (単位: 円)

特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会

自 2023年 4月 1日 至 2024年 3月31日

**【経常収益】**

**【受取会費】**

運営会員受取会費	1,464,000	
賛同会員受取会費	25,865,000	27,329,000

**【受取寄付金】**

受取一般寄付金	4,947,570	
Giving Japan基金	25,000	
寄付教育推進寄付	1,715,338	
ファンドレイジングスクール奨学金寄付	400,000	7,087,908

**【受取助成金等】**

受取助成金	62,600,049	
受取補助金	13,104,885	75,704,934

**【事業収益】**

事業 収益		132,399,000
-------	--	-------------

**【その他収益】**

受取 利息	2,738	
為替 差益	117,460	120,198

経常収益 計

242,641,040

**【経常費用】**

**【事業費】**

(人件費)

給料 手当(事業)	47,524,373	
役員 報酬(事業)	7,122,400	
補助作業員給与(事業)	1,939,230	
通 勤 費(事業)	214,536	
法定福利費(事業)	8,491,769	
人件費計	65,292,308	

(その他経費)

期首棚卸高	7,136,702	
期末棚卸高	△ 7,648,497	
業務委託費(事業)	110,188,597	
諸 謝 金	7,459,407	
印刷製本費(事業)	458,073	
会 議 費(事業)	1,550,883	
広告宣伝費(事業)	686,500	
旅費交通費(事業)	9,804,184	
通信運搬費(事業)	277,191	
備品消耗品費(事業)	2,159,631	
水道光熱費(事業)	208,290	
地代 家賃(事業)	3,738,455	
賃 借 料(事業)	39,380	
会 場 費(事業)	6,635,501	
減価償却費(事業)	3,282,400	
保 険 料(事業)	21,170	
租税 公課(事業)	4,083,700	
研 修 費(事業)	557,751	
支払手数料(事業)	892,982	
支払寄付金(事業)	1,248,916	
雑 費(事業)	227,500	
その他経費計	153,008,716	

事業費 計

218,301,024

**【管理費】**

(人件費)

給料 手当	10,011,188	
役員 報酬	4,477,600	
補助作業員給与	369,377	
退職給付費用	228,000	

通 勤 費	56,332		
法定福利費	2,229,740		
福利厚生費	472,137		
人件費計	<u>17,844,374</u>		
(その他経費)			
会 場 費	21,184		
印刷製本費	73,015		
会 議 費	21,946		
旅費交通費	727,872		
業務委託費	18,769,597		
研 修 費	658,156		
通信運搬費	1,796,991		
備品消耗品費	410,466		
水道光熱費	43,631		
地代 家賃	783,073		
広告宣伝費	413,000		
新聞図書費	20,610		
減価償却費	458,190		
保 險 料	66,302		
諸 会 費	804,553		
租 税 公 課	4,000		
支払手数料	2,668,826		
支 払 利 息	52,147		
為替 差損	3,897		
雑 費	<u>84,476</u>		
その他経費計	<u>27,881,932</u>		
管理費 計		<u>45,726,306</u>	
経常費用 計			<u>264,027,330</u>
当期経常増減額			<u>△ 21,386,290</u>
【経常外収益】			
経常外収益 計			0
【経常外費用】			
過年度損益修正損		<u>5,322,000</u>	
経常外費用 計			<u>5,322,000</u>
税引前当期正味財産増減額			<u>△ 26,708,290</u>
法人税、住民税及び事業税			<u>70,000</u>
当期正味財産増減額			<u>△ 26,778,290</u>
前期繰越正味財産額			<u>81,492,534</u>
次期繰越正味財産額			<u><u>54,714,244</u></u>

# 貸借対照表

特定非営利活動法人日本ファントレーシング協会  
全事業所

[税込] (単位: 円)  
2024年 3月31日 現在

		《資産の部》	
<b>【流動資産】</b>			
(現金・預金)			
現金	66,318		
普通預金	29,608,570		
現金・預金計	29,674,888		
(売上債権)			
未収金	12,970,872		
売上債権計	12,970,872		
(棚卸資産)			
棚卸資産	7,648,497		
棚卸資産計	7,648,497		
(その他流動資産)			
立替金	1,797,965		
その他流動資産計	1,797,965		
流動資産合計		52,092,222	
<b>【固定資産】</b>			
(有形固定資産)			
建物附属設備	175,422		
什器備品	294,320		
有形固定資産計	469,742		
(無形固定資産)			
ソフトウェア	12,982,934		
無形固定資産計	12,982,934		
(投資その他の資産)			
保証金	1,868,400		
退職給付引当預金	2,040,000		
投資その他の資産計	3,908,400		
固定資産合計		17,361,076	
資産の部合計			69,453,298
		《負債の部》	
<b>【流動負債】</b>			
未払金	11,010,267		
前受金	1,000,000		
預り金	503,287		
未払消費税	185,500		
流動負債計		12,699,054	
<b>【固定負債】</b>			
退職給付引当金	2,040,000		
固定負債計		2,040,000	
負債の部合計			14,739,054
		《正味財産の部》	
<b>【正味財産】</b>			
前期繰越正味財産額	81,492,534		
当期正味財産増減額	△ 26,778,290		
正味財産計		54,714,244	
正味財産の部合計			54,714,244
負債・正味財産合計			69,453,298

## 財務諸表の注記

特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会

2024年 3月31日 現在

### 【重要な会計方針】

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

- (1). 棚卸資産の評価基準及び評価方法  
最終仕入原価法による原価法
- (2). 固定資産の減価償却の方法  
有形固定資産：定率法  
無形固定資産：定額法
- (3). 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込み経理方式によっています。

### 【事業別損益の状況】

事業別損益の状況は以下の通りです。  
明細は別紙に出力します。

### 【使途等が制約された寄付等の内訳】

使途等が制約された寄付等の内訳は以下の通りです。  
当法人の正味財産は54,714,244円ですが、そのうち145,000円は、下記のように使途が特定されています。したがって使途が制約されていない正味財産は54,569,244円です。

[税込] (単位：円)

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
受取寄付金					
寄付教育推進寄付	0	1,715,338	1,715,338	0	
ファンドレイジング・スクール奨学金	45,000	400,000	300,000	145,000	
Giving Japan基金	0	25,000	25,000	0	
受取補助金					
港区	0	7,000,000	7,000,000	0	
子ども宅食プロジェクト	0	6,104,885	6,104,885	0	
受取助成金					
日本国際協力財団	0	7,000,000	7,000,000	0	
国際協力NGOセンター	0	625,549	625,549	0	
三菱みらい育成財団	0	5,000,000	5,000,000	0	
CSES	0	49,974,500	49,974,500	0	
合計	45,000	77,845,272	77,745,272	145,000	

### 【固定資産の増減内訳】

[税込] (単位：円)

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
(有形固定資産)						
建物附属設備	639,036	0	0	639,036	△ 463,614	175,422
什器 備品	3,869,300	458,040	651,530	3,675,810	△ 3,381,490	294,320
(無形固定資産)						
ソフトウェア	16,412,000		0	16,412,000	△ 3,429,066	12,982,934
(投資その他の資産)						
保証金	1,868,400	0	0	1,868,400	0	1,868,400
退職給付引当預金	1,812,000	228,000	0	2,040,000	0	2,040,000
差入保証金	12,155,000	0	12,155,000	0	0	0
合計	36,755,736	686,040	12,806,530	24,635,246	△ 7,274,170	17,361,076

### 【借入金を増減内訳】

[税込] (単位：円)

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
長期借入金	5,682,000		5,682,000	0
合計	5,682,000	0	5,682,000	0

### 【役員及びその近親者との取引の内容】

役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

[税込] (単位：円)

科目	財務諸表に計上された金額	内、役員との取引	内、近親者及び近親者等との取引
(活動計算書)			
事業費			
業務委託費	110,188,708	12,709,880	
諸謝金	7,459,407	254,000	
活動計算書計	117,648,115	12,963,880	

【その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項】

支払寄付金は、社会貢献教育事業のプログラム (Learning by Giving) 実施上で提供した寄付金である。

2023年度 決算  
事業別損益の状況

特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会

自 2023年 4月 1日 至 2024年 3月31日

[税込] (単位: 円)

科目	ファンドレイジング大会	ファンドレイジング育成事業	寄付白書	社会貢献教育	寄付社会創造事業	ソーシャルバリエーション	事業部門計	管理	合計
【受取会費】									
運営会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	1,464,000	1,464,000
賛同会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	25,865,000	25,865,000
【受取寄付金】									
受取一般寄付金	450,000	0	0	0	0	0	450,000	4,497,570	4,947,570
Giving Japan基金	0	0	25,000	0	0	0	25,000	0	25,000
寄付教育推進寄付	0	0	0	1,715,338	0	0	1,715,338	0	1,715,338
ファンドレイジングスクール奨学金寄付	0	400,000	0	0	0	0	400,000	0	400,000
【受取助成金等】									
受取助成金	0	2,683,549	0	5,000,000	0	54,916,500	62,600,049	0	62,600,049
受取補助金	0	0	0	3,500,000	3,500,000	6,104,885	13,104,885	0	13,104,885
【事業収益】									
事業 収益	19,633,266	26,235,766	1,400,315	8,010,940	9,363,179	67,755,534	132,399,000	0	132,399,000
【その他収益】									
受取 利息	0	0	0	0	0	0	0	2,738	2,738
為替 差益	0	0	0	0	0	0	0	117,460	117,460
経常収益 計	20,083,266	29,319,315	1,425,315	18,226,278	12,863,179	128,776,919	210,694,272	31,946,768	242,641,040
(人件費)									
給料 手当	6,386,447	12,830,430	690,427	4,660,380	7,364,552	15,592,137	47524373	10,011,188	57,535,561
役員 報酬	290,000	626,400	116,000	301,600	1,276,000	4,512,400	7122400	4,477,600	11,600,000
補助作業者給与	23,086	323,205	0	530,980	161,602	900,357	1939230	369,377	2,308,607
退職給付費用	0	0	0	0	0	0	0	228,000	228,000
通勤 費	25,400	52,245	3,057	20,826	33,372	79,636	214536	56,332	270,868
法定福利費	1,005,388	2,067,947	121,019	824,320	1,320,925	3,152,170	8491769	2,229,740	10,721,509
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	0	472,137	472,137
人件費計	7,730,321	15,900,227	930,503	6,338,106	10,156,451	24,236,700	65,292,308	17,844,374	83,136,682
(その他経費)									
期首棚卸高	0	0	5,899,768	223,735	1,007,907	5,292	7,136,702	0	7,136,702
仕入 高	0	0	0	0	0	0	0	0	0
期末棚卸高	0	△ 26,917	△ 6,139,697	△ 584,069	△ 892,522	△ 5,292	△ 7,648,497	0	△ 7,648,497
業務委託費	8,160,261	10,656,335	851	13,711,006	5,957,707	71,702,437	110,188,597	18,769,597	128,958,194
諸 謝 金	0	4,830,750	10,000	1,360,520	0	1,258,137	7,459,407	0	7,459,407
印刷製本費	27,033	368,550	0	59,950	60	2,480	458,073	73,015	531,088
会 議 費	1,106,529	10,616	0	38,244	91,504	303,990	1,550,883	21,946	1,572,829
広告宣伝費	0	0	180,000	506,500	0	0	686,500	413,000	1,099,500
旅費交通費	1,427,215	1,360,450	0	3,162,471	2,594,148	1,259,900	9,804,184	727,872	10,532,056
通信運搬費	33,445	104,232	3,696	103,765	7,161	24,892	277,191	1,796,991	2,074,182
備品消耗品費	52,372	55,586	0	2,047,483	1,120	3,070	2,159,631	410,466	2,570,097
新聞図書費	0	0	0	0	0	0	0	20,610	20,610
水道光熱費	23,741	33,112	902	32,069	19,040	99,426	208,290	43,631	251,921
地代 家賃	426,111	594,301	16,190	575,585	341,742	1,784,526	3,738,455	783,073	4,521,528
賃 借 料	39,380	0	0	0	0	0	39,380	0	39,380
会 場 費	4,755,080	0	0	847,589	110,000	922,832	6,635,501	21,184	6,656,685
減価償却費	0	0	0	3,282,400	0	0	3,282,400	458,190	3,740,590
保 険 料	19,010	2,160	0	0	0	0	21,170	66,302	87,472
諸 会 費	0	0	0	0	0	0	0	804,553	804,553
租税 公課	605,566	809,213	43,191	247,089	288,797	2,089,844	4,083,700	4,000	4,087,700
研 修 費	12,000	4,644	0	0	272,329	268,778	557,751	658,156	1,215,907
支払寄付金	0	0	0	1,248,916	0	0	1,248,916	0	1,248,916
支払手数料	463,995	0	0	408,987	0	20,000	892,982	2,668,826	3,561,808
為替 差損	0	0	0	0	0	0	0	3,897	3,897
支払 利息	0	0	0	0	0	0	0	52,147	52,147
雑 費	0	0	0	0	0	227,500	227,500	84,476	311,976
その他経費計	17,151,738	18,803,032	14,901	27,272,240	9,798,993	79,967,812	153,008,716	27,881,932	180,890,648
経常費用 計	24,882,059	34,703,259	945,404	33,610,346	19,955,444	104,204,512	218,301,024	45,726,306	264,027,330
当期経常増減額	△ 4,798,793	△ 5,383,944	479,911	△ 15,384,068	△ 7,092,265	24,572,407	△ 7,606,752	△ 13,779,538	△ 21,386,290

# 財 産 目 録

特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会  
全事業所

[税込] (単位：円)  
2024年 3月31日 現在

《資産の部》

## 【流動資産】

(現金・預金)

現 金	66,318
普通 預金	29,608,570
住信SBIネット銀行	(22,833,334)
住信SBIネット\$ (米ドル)	(298)
三菱UFJ 1	(5,773,532)
三菱UFJ 2	(61,641)
ゆうちょ銀行	(1,434)
郵便振替	(681,927)
中国銀行	(2,296,404)
退職引当	(△ 2,040,000)
現金・預金 計	29,674,888

(売上債権)

未 収 金	12,970,872
文化庁	(4,992,570)
文京区こども宅食事業	(3,072,425)
一財) ふくしま百年基金	(1,320,000)
社会貢献教育CF寄付金	(1,036,350)
その他	(2,549,527)
売上債権 計	12,970,872

(棚卸資産)

棚卸 資産	7,648,497
ジャーナル	(115,662)
寄付白書	(5,023,697)
Giving Japan	(1,116,000)
ブックレット	(76,874)
寄付をしてみようと、と思ったら読む本	(401,280)
社会に貢献する	(84,357)
遺贈寄付ハンドブック	(326,672)
社会貢献教育ハンドブック	(98,432)
社会的投資市場形成に向けたロードマップ	(328,434)
遺贈寄付 最期のお金の活かし方	(44,880)
社会的インパクトとは何か?	(5,292)
赤テキスト (冊子)	(26,917)
棚卸資産 計	7,648,497

(その他流動資産)

立 替 金	1,797,965
源泉所得税	(1,286,506)
その他補助	(511,459)
その他流動資産 計	1,797,965

流動資産合計

52,092,222

## 【固定資産】

(有形固定資産)

建物附属設備	175,422
パーテーション	(110,027)
電気工事	(29,258)
電気配線電話工事	(36,137)
什器 備品	294,320
コピー機	(1)
電話回線	(1)
看板	(1)
パソコン10台	(294,317)
有形固定資産 計	469,742

(無形固定資産)

ソフトウェア	12,982,934
決済システムとマイページ	(9,609,600)
寄付カードゲーム開発	(3,373,334)
無形固定資産 計	12,982,934

(投資その他の資産)

保 証 金	1,868,400
退職給付引当預金	2,040,000
投資その他の資産 計	3,908,400

固定資産合計

17,361,076

資産の部 合計

69,453,298

《負債の部》

【流動負債】

未払金	11,010,267	
経費	(3,552,535)	
株式会社コムネット	(1,824,130)	
有限会社パリティクラブ	(1,232,000)	
TOC有明	(934,120)	
株式会社テーオーシー	(858,000)	
その他	(2,609,482)	
前受金	1,036,000	
会費	(1,036,000)	
預り金	503,287	
報酬等所源泉	(138,125)	
雇用保険料	(49,962)	
住民税	(315,200)	
未払消費税	185,500	
流動負債計		12,699,054

【固定負債】

退職給付引当金	2,040,000	
固定負債計		2,040,000
負債の部合計		14,739,054

正味財産		54,714,244
------	--	------------

# 監査報告書

認定特定非営利活動法人  
日本ファンドレイジング協会  
代表理事 鷗尾雅隆 様

私たちは、特定非営利活動促進法第18条の規定に基づき、認定特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会の2023年度（2023年4月1日から2024年3月31日まで）の業務監査及び会計監査を行った。

理事の業務執行の状況に関する監査に当たっては、理事会に出席し、必要と認める場合には質問を行った。また、財産の状況に関する監査に当たっては、現地監査と電子データの事前送付の方法により、財務諸表等(活動計算書、貸借対照表、財務諸表の注記及び財産目録)と帳簿や証拠書類等との照合、質問等の合理的な保証を得るための手続きを行った。

監査の結果、理事の業務執行は、法令、定款及び事業計画に基づき適正に執行され、不正の行為または法令・定款に違反する重大な事実はないことが認められた。

また法人の財産状況は、NPO法人会計基準に準拠して、財務諸表等に適正に表示されているものと認められた。

以上のとおり報告する。

2024年5月14日

監事 相浦圭太  
同 工藤敦子

## 第4号議案 2024年度事業・活動計画

### 2024年度ハイライト

- FRJ2025の早期スタートダッシュにより、関係者(登壇者、協賛)の参画意欲の醸成と業務効率化推進
- 2期目を迎える「ファンドレイジング実践プログラム」の拡充による、ファンドレイジング実践のサポート拡大
- カードゲーム「from Me」の企業、学校での着実な展開と収益化モデルの確率
- 『寄付白書 2025』出版プロジェクトのスタート
- 社会的インパクトセンターでの海外連携を盤石なものとし、日本の活動、取組みのプレゼンスの向上を推進

2024年、当協会は創立以来15年目の活動となる。昨年度からとりかかっている中期計画、そこで描いた寄付/社会的投資が進む社会のための、健やかなエコシステムの成長にむけ、自分たちの事業のみならず、エコシステムに係わるステークホルダーの方々との成長を目指していきたいと願っている。

具体的には、上記ハイライトで掲げた事案を確実に実施していくと共に、関係者との連携を密にし、新しい価値を生み出していくことを目指す。

### ファンドレイジング・日本(FRJ2025)

#### ◇2024年度目標

- ・ 学びと出会いの場の棲み分けを行い、対面、オンデマンドそれぞれの価値を追求する。
- ・ 収益性の確保と運営の効率化を図る。

#### ◇具体的な取り組み

- ・ FRJ2025の開始日、開催会場を4月9日に発表することにより(対面イベントは2025年1月18日、TOC有明コンベンションホールでの開催)、関係者(登壇者、協賛)の参画意欲の醸成、参加者のモチベーション向上を目指す。
- ・ 6月からセッション公募、協賛の募集を開始していく。
- ・ FRJ2024の開催経験を活かした運営の効率性向上を図ることにより、よりコンテンツにフォーカスできるような体制を確保する。

#### ◇実現したい状態

- ・ FRJの場がファンドレイジングについて語り、学び、そして広げていく場となり、社会的投資を含め、エコシステムの成長、発展が確認しあえる場となる。

### ファンドレイザー育成事業

#### ◇2024年度目標

- ・ ファンドレイジングに取り組みたい団体や個人が、実践できる環境を整える。
- ・ 信頼できるファンドレイザーやロールモデルが可視化され、ファンドレイザーのキャリアの選択肢が広がる。
- ・ ファンドレイジングの知識やスキルを習得するための多様な学びを、最適な形で提供する。

#### ◇具体的な取り組み

- ・ 「ファンドレイジング実践プログラム」の活動を通じて、ファンドレイジングに取り組みたい団体の実践をサポートする。
- ・ 「認定ファンドレイザー資格制度」「ファンドレイジング専門コース」「ファンドレイジング・スクール」を通じて、最適な学習環境を提供する。
- ・ 団体向けのファンドレイジング研修を提供し、各団体のニーズに合わせた知識やスキルの習得機会の提供を行う。

#### ◇実現したい状態

- ・ 社会課題の解決やプロジェクトの実現のためにファンドレイジングが必要な団体が、信頼できるファンドレイザーと出会い、その関係を構築し、ファンドレイジングに取り組むことができる状態を目指す。

### 寄付調査・寄付白書事業

---

#### ◇2024 年度目標

- ・ 『寄付白書 2025』出版プロジェクトのスタート。

#### ◇具体的な取り組み

- ・ 研究者・ファンドレイザーで構成される寄付白書発行研究会の立ち上げ。
- ・ 寄付白書 2025 出版に向けた資金調達。
- ・ 調査設計と実査。

#### ◇実現したい状態

- ・ 寄付市場を把握する的確なデータの発行がなされている。
- ・ 研究成果がエビデンスとしてファンドレイザーに活用されている。
- ・ 一般生活者にとって身近なニュース話題として、寄付が取り上げられている。

### 寄付市場創造事業 – 社会貢献教育

---

#### ◇2024 年度目標

- ・ カードゲーム「from Me」の収益化と高校生版開発と高校展開。
- ・ 社会貢献教育プログラムおよび人材の量の拡大と質の向上。
- ・ 安定運営のための財源の仕組み化。

#### ◇具体的な取り組み

- ・ カードゲーム「from Me」体験会・養成講座の定期開催、企業団体向け研修の提供、高校への提供。
- ・ 社会貢献教育プログラムの提供チャネル開拓と学校への提供、社会貢献教育ファシリテーター基礎研修の実施。
- ・ マンスリーサポーターの獲得施策の実施。

#### ◇実現したい状態

- ・ 輩出された実践者が主体的に事例を生み出し、またその好事例が進んで模倣され拡散している状態となり、社会貢献教育の効果が公表され広く認知される。
- ・ 安定事業財源が確保されている。

## 社会的インパクトセンター

---

#### ◇2024 年度目標

- ・ 海外連携によるインパクト志向の新しい資金提供モデルの構築と社会課題解決モデルの海外展開支援を行う。
- ・ 日本・アジアとのベンチャーフィランソロピー・インパクト投資に関するネットワークの形成を行う。
- ・ 社会的インパクト・マネジメントの普及と推進を行う。
- ・ 法人連携チームを通じた各部署とのシナジーの強化を行い、ファンドレイジング×社会的インパクト・マネジメントをテーマに付加価値の高い研修や伴走支援を行う。
- ・ 資金循環拡張のロードマップ(TOC)作成の検討を開始する。

#### ◇具体的な取り組み

- ・ 韓国 SK グループの企業財団である Center for Social value Enhancement Studies (CSES) との協働によるアウトカムファンド事業の 2 年目の取り組みの推進。
- ・ 社会課題解決モデルの海外展開支援やアジアとの学び合いネットワークづくりに取り組む。
- ・ AVPN(Asian Venture Philanthropy Network)の日本代表パートナーとして、日本・アジアにおけるベンチャーフィランソロピー・インパクト投資に関するネットワークの形成を行う。
- ・ 社会的インパクト・マネジメントに関する研修・伴走支援を提供する。
- ・ 一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ(SIMI)を通じた金融機関向けインパクト・アナリスト研修及び SDG インパクト基準研修等を実施する。
- ・ 法人連携チームにおける部署連携による研修・伴走支援等を実施する。
- ・ 資金循環拡張のロードマップ(TOC)をエコシステムメンバーと共創的に作成する方法について検討する。

#### ◇実現したい状態

- ・ 事業者において社会的インパクト・マネジメントの実践が当たり前に行われる状態を目指す。
- ・ ファンドレイジング x 社会的インパクト・マネジメントをテーマにした当協会だからこそ提供できる付加価値の高い研修や伴走支援が提供されている状態を目指す。

## 組織運営

---

#### 法人連携

#### ◇2024 年度目標

- ・ 各事業部門横断での法人連携の取り組み連携が恒常的に行われている。

#### ◇具体的な取り組み

- ・ 月次での法人連携 MTG の開催と担当者間の情報連携。

#### ◇実現したい状態

- ・ 法人連携のプロジェクトが情報連携されて、最大限の相乗効果を発揮した内容で恒常的に提供出来ている。

### 広報

#### ◇2024 年度目標

- ・ 当協会の多様な事業や取り組みの意義や目的を広く社会に発信し、理解促進・認知拡大を目指す。

#### ◇具体的な取り組み

- ・ 各事業部と連携を深め、積極的な情報収集を行う。
- ・ 事業の目的や意義を明確にし、伝わる言葉で広報する。

#### ◇実現した状態

- ・ 当協会の各活動の価値や内容を発信し、寄付や社会的投資に関する情報を必要とする人々に、信頼される情報源として活用されることを目指す。

### 会員

#### ◇2024 年度目標

- ・ 各チャプターの活動を支援し、チャプター間の連携を強化すると同時に、会員向けに積極的に情報を発信する。
- ・ 会員特典の利用促進と手続きのセキュリティ強化を図り、マイページシステムのアップデートを行う。

#### ◇具体的な取り組み

- ・ チャプター代表会議を継続し、チャプター間の対話と連携を促進する。
- ・ 会員管理業務を自動化し、セキュリティを強化する取り組みを進める。

#### ◇実現した状態

- ・ 各チャプターの活動を通じて、会員が個々の目標や思いを実現できる環境が整った状態を目指す。
- ・ 会員が学びたいことや情報収集したいことにいつでもアクセスでき、会員特典の利用が促進されると同時に、会員情報のセキュリティも強化された状態を目指す。

### 事務局運営

#### ◇2024 年度目標

- ・ 中期計画にそった事業の推進とそのモニタリング。
- ・ 組織スタッフ、TeamJFRA メンバーが、つながり助けあいながらチームング出来るような場づくり。

#### ◇具体的な取り組み

- 中期計画の公表を行い、また事業の進捗について適格な把握ができるような組織管理を追求していく。
- 理事においては、従来の業務担当理事に代わり、常任委員会を設けることによる、よりスピーディーに事務局の運営、意思決定が図られるようにする。
- 事務局のスタッフが安全、安心な環境で業務ができるような環境を継続して整備していく。そのために、スタッフの心身の状況にもアテンションをはらっていく。
- 事務局の管理経費削減に向け、経費関連のシステム導入を計画し、業務の効率化を推進する。また、今の事務局運営にとって最適なオフィス環境を模索検討していく。
- チームビルディングのための計画的な対面会議の設定。

#### ◇実現したい状態

- 健全な経営と、成長を応援する組織風土の確立。

定款変更認証申請に係わる提出必要書類

書式第8号（法第10条・第25条関係）

設立・定款変更用

2024 年度 事業計画書

特定非営利活動法人 日本ファンディング協会

1 事業実施の方針

2023年度からとりかかっている中期経営計画を実施し、自分たちの事業のみならず、関係組織やステークホルダーの方々と共に、寄付・社会的投資の進む社会への成長を目指した活動を実施する。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業 (事業費の総費用【 185,996 】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
(1)日本の民間非営利団体等におけるファンディングの情報共有、技能や信頼性の向上を図る研修事業	ファントレイサー育成事業での研修提供、団体、ファントレイサーの伴走支援等	通年	オンライン、オンサイト、当法人事務所及び指定場所	4人	会員及び一般希望者	多数	46,960
(2)国内外の寄付・社会的投資等に関する調査・研究、普及啓発、提言、支援及び出版事業	寄付研究・寄付白書事業における『寄付白書2025』発刊に向けてのプロジェクト 寄付市場創造事業 ・ 逸興寄付寄付月間における運営支援業務	通年	オンライン、当法人事務所及び指定場所	1名	会員及び一般希望者	多数	6,214
(3)寄付やボランティアを増やすための社会貢献教育事業	寄付市場創造事業 ・社会貢献教育の企業、学校等への提供とファシリテーターの育成等	通年	オンライン、当法人事務所及び指定場所	3人	会員及び一般希望者	多数	16,457
(4)ファンディングを支援する企業・団体などと民間非営利団体等との関係づくりの機会の創出事業	ファンディング大会(4KJ2025)の運営実施等	通年	オンライン、当法人事務所及び指定場所	10人	会員及び一般希望者	約1,000人	25,103
(5)社会的インパクト・マネジメントや社会的投資の促進事業	社会的インパクトセンターにおけるインパクト・マネジメント、インパクト投資の促進等	通年	オンライン、当法人事務所及び指定場所	3名	会員及び一般希望者	多数	91,262

# 第5号議案 2024年度 予算計画

## 活動 予算書

[税込] (単位: 円)

特定非営利活動法人日本ファントレジンク協会

自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月31日

<b>【経常収益】</b>		
<b>【受取会費】</b>		
運営会員受取会費	1,391,000	
賛同会員受取会費	28,048,000	29,439,000
<b>【受取寄付金】</b>		
受取一般寄付金	1,100,000	
Giving Japan基金	2,500,000	
寄付教育推進寄付	1,154,000	
ファントレジンクスクール奨学金寄付	260,000	5,014,000
<b>【受取助成金等】</b>		
受取助成金	64,331,000	
受取補助金	15,600,000	79,931,000
<b>【事業収益】</b>		
事業 収益		155,781,000
<b>【その他収益】</b>		
受取 利息	1,000	
為替 差益	0	1,000
経常収益 計		270,166,000
<b>【経常費用】</b>		
<b>【事業費】</b>		
(人件費)		
給料 手当(事業)	45,621,000	
役員 報酬(事業)	4,200,000	
補助作業員給与(事業)	877,000	
通勤 費(事業)	144,000	
法定福利費(事業)	7,972,000	
福利厚生費(事業)	720,000	
人件費計	59,534,000	
(その他経費)		
売上原価	610,000	
業務委託費(事業)	102,970,000	
諸 謝 金	8,133,000	
印刷製本費(事業)	510,000	
会 議 費(事業)	1,745,000	
広告宣伝費(事業)	500,000	
旅費交通費(事業)	2,665,000	
通信運搬費(事業)	474,000	
備品消耗品費(事業)	220,000	
水道光熱費(事業)	0	
地代 家賃(事業)	0	
賃 借 料(事業)	0	
会 場 費(事業)	5,960,000	
減価償却費(事業)	880,000	
保 険 料(事業)	0	
租税 公課(事業)	0	
研 修 費(事業)	30,000	
支払手数料(事業)	1,085,000	
支払寄付金(事業)	0	
雑 費(事業)	680,000	
その他経費計	126,462,000	
事業費 計		185,996,000
<b>【管理費】</b>		
(人件費)		
給料 手当	16,499,000	
役員 報酬	7,800,000	
補助作業員給与	1,322,000	
退職給付費用	228,000	

通 勤 費	56,000		
法定福利費	3,888,000		
福利厚生費	280,000		
人件費計	<u>30,073,000</u>		
(その他経費)			
印刷製本費	0		
会 議 費	100,000		
旅費交通費	1,950,000		
業務委託費	17,215,000		
研 修 費	500,000		
通信運搬費	3,260,000		
備品消耗品費	920,000		
水道光熱費	150,000		
地代 家賃	4,510,000		
賃 貸 料	60,000		
広告宣伝費	0		
新聞図書費	30,000		
減価償却費	2,402,000		
保 險 料	50,000		
諸 会 費	800,000		
租税 公課	5,000,000		
支払手数料	4,118,000		
支払 利息	300,000		
為替 差損	0		
雑 費	89,000		
その他経費計	<u>41,454,000</u>		
管理費 計		<u>71,527,000</u>	
経常費用 計			<u>257,523,000</u>
当期経常増減額			<u>12,643,000</u>
【経常外収益】			
経常外収益 計			0
【経常外費用】			
経常外費用 計			<u>0</u>
税引前当期正味財産増減額			<u>12,643,000</u>
法人税、住民税及び事業税			<u>70,000</u>
当期正味財産増減額			<u>12,573,000</u>
前期繰越正味財産額			<u>54,714,244</u>
次期繰越正味財産額			<u>67,287,244</u>

2024年度予算 内訳

[税込] (単位:円)

科目	ファンドレイジング大会	ファンドレイザー育成事業	寄付白書	社会貢献教育	寄付社会創造事業	社会的インパクトセンター事業	事業費合計	管理	合計
【受取会費】									
運営会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	1,391,000	1,391,000
賛同会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	28,048,000	28,048,000
【受取寄付金】									
受取一般寄付金	500,000	0	0	0	0	0	500,000	600,000	1,100,000
Giving Japan基金	0	0	2,500,000	0	0	0	2,500,000	0	2,500,000
寄付教育	0	0	0	1,154,000	0	0	1,154,000	0	1,154,000
15周年寄付	0	0	0	0	0	0	0	0	0
FRS奨学金	0	260,000	0	0	0	0	260,000	0	260,000
【受取助成金等】									
受取助成金	5,000,000	4,331,000	0	5,000,000	0	50,000,000	64,331,000	0	64,331,000
受取補助金	0	0	0	0	0	3,000,000	3,000,000	12,600,000	15,600,000
【事業収益】									
事業 収益	24,603,000	49,887,000	647,000	12,056,000	1,588,000	67,000,000	155,781,000	0	155,781,000
【その他収益】									
受取 利息	0	0	0	0	0	0	0	1,000	1,000
売上計	30,103,000	54,478,000	3,147,000	18,210,000	1,588,000	120,000,000	227,526,000	42,640,000	270,166,000
(人件費)									
役員手当	1,200,000	1,500,000	0	0	0	1,500,000	4,200,000	7,800,000	12,000,000
給料 手当	6,774,000	16,286,000	656,000	3,558,000	1,554,000	16,793,000	45,621,000	16,499,000	62,120,000
補助作業者給与	0	0	0	60,000	0	817,000	877,000	1,322,000	2,199,000
退職金給付費用	0	0	0	0	0	0	0	228,000	228,000
通勤 費	25,000	61,000	2,000	14,000	4,000	38,000	144,000	56,000	200,000
法定福利費	1,276,000	2,846,000	105,000	569,000	249,000	2,927,000	7,972,000	3,888,000	11,860,000
福利厚生費	125,000	305,000	10,000	70,000	20,000	190,000	720,000	280,000	1,000,000
人件費計	9,400,000	20,998,000	773,000	4,271,000	1,827,000	22,265,000	59,534,000	30,073,000	89,607,000
(その他経費)									
売上原価	0	0	610,000	0	0	0	610,000	0	610,000
業務委託費	8,120,000	18,174,000	1,880,000	6,955,000	1,100,000	66,741,000	102,970,000	17,215,000	120,185,000
諸 謝 金	0	6,843,000	0	1,090,000	0	200,000	8,133,000	0	8,133,000
印刷製本費	0	500,000	0	10,000	0	0	510,000	0	510,000
会 議 費	1,265,000	0	0	0	0	480,000	1,745,000	100,000	1,845,000
広告宣伝費	0	0	0	500,000	0	0	500,000	0	500,000
旅費交通費	750,000	99,000	0	670,000	0	1,146,000	2,665,000	1,950,000	4,615,000
通信運搬費	18,000	176,000	10,000	256,000	14,000	0	474,000	3,260,000	3,734,000
備品消耗品費	50,000	50,000	0	120,000	0	0	220,000	920,000	1,140,000
新聞図書費	0	0	0	0	0	0	0	30,000	30,000
水道光熱費	0	0	0	0	0	0	0	150,000	150,000
地代 家賃	0	0	0	0	0	0	0	4,510,000	4,510,000
賃貸料 会場費	5,000,000	0	0	560,000	0	400,000	5,960,000	60,000	6,020,000
減価償却費	0	0	0	880,000	0	0	880,000	2,402,000	3,282,000
保険料	0	0	0	0	0	0	0	50,000	50,000
諸会費	0	0	0	0	0	0	0	800,000	800,000
租税公課	0	0	0	0	0	0	0	5,000,000	5,000,000
研 修 費	0	0	0	0	0	30,000	30,000	500,000	530,000
寄付金(助成金)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
支払手数料	0	0	0	1,085,000	0	0	1,085,000	4,118,000	5,203,000
為替差損	0	0	0	0	0	0	0	0	0
支払利息	0	0	0	0	0	0	0	300,000	300,000
雑 費	500,000	120,000	0	60,000	0	0	680,000	89,000	769,000
その他経費計	15,703,000	25,962,000	2,500,000	12,186,000	1,114,000	68,997,000	126,462,000	41,454,000	167,916,000
合計	25,103,000	46,960,000	3,273,000	16,457,000	2,941,000	91,262,000	185,996,000	71,527,000	257,523,000
当期経常増減額	5,000,000	7,518,000	-126,000	1,753,000	-1,353,000	28,738,000	41,530,000	-28,887,000	12,643,000

## 第 6 号議案 定款変更認証申請に係わる所轄庁への提出必要書類

第 1 号議案にて承認いただく定款変更の認証申請において、所轄庁へ 2025 年度の事業計画及び予算計画の提出が必要となるため、以下の内容の承認をお願いいたします。

書式第 8 号（法第 10 条・第 25 条関係）

設立・定款変更用

2025 年度 事業計画書

特定非営利活動法人 日本ファンドレイジング協会

**1 事業実施の方針**

2024 年度の事業をベースとし、自分たちの事業のみならず、関係組織やステークホルダーの方々と共に、寄付・社会的投資の進む社会への成長を目指した活動を実施する。

**2 事業の実施に関する事項**

(1) 特定非営利活動に係る事業 (事業費の総費用【 195,478 】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
(1) 日本の民間非営利団体等におけるファンドレイジングの情報共有、技能や信頼性の向上を図る研修事業	ファンドレイザー育成事業での研修提供、団体、ファンドレイザーの伴走支援等	通年	オンライン、オンデマンド、当法人事務所及び指定場所	4 人	会員及び一般希望者	多数	48,835
(2) 国内外の寄付・社会的投資等に関する調査・研究、普及啓発、提言、支援及び出版事業	寄付研究・寄付白書事業における『寄付白書 2025』発刊に向けてのプロジェクト 寄付市場創造事業 ・遺贈寄付/寄付月間における運営支援業務	通年	オンライン、当法人事務所及び指定場所	1 名	会員及び一般希望者	多数	6,365
(3) 寄付やボランティアを増やすための社会貢献教育事業	寄付市場創造事業 ・社会貢献教育の企業、学校等への提供とファシリテーターの育成等	通年	オンライン、当法人事務所及び指定場所	3 人	会員及び一般希望者	多数	17,701
(4) フマンドレイジングを支援する企業、団体など民間非営利団体等との関係づくりの機会の創出事業	ファンドレイジング大会 (FRJ2026) の運営/実施等	通年	オンライン、当法人事務所及び指定場所	10 人	会員及び一般希望者	約 1,000 人	25,375
(5) 社会的インパクト・マネジメントや社会的投資の促進事業	社会的インパクトセンターにおけるインパクト・マネジメント、インパクト投資の促進等	通年	オンライン、当法人事務所及び指定場所	3 名	会員及び一般希望者	多数	97,202

書式第9号 (法第10条・第25条関係)		設立・定款変更用	
2025年度 活動予算書 (その他事業がない場合)			
特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会			
(単位:円)			
科 目	金 額	小計・合計	
<b>【A】 経常収益</b>			
1 受取会費			29,900,000
運営会員受取会費	1,400,000		
賛同会員受取会費	28,500,000		
2 受取寄附金			2,500,000
受取寄附金	1,100,000		
Giving Japan 基金	50,000		
寄付教育	1,150,000		
FRS奨学金	200,000		
3 受取助成金等			71,300,000
受取助成金	61,300,000		
受取補助金	10,000,000		
4 事業収益			194,300,000
事業収益	194,300,000		
5 その他の収益			1,000
受取利息	1,000		
<b>経常収益計</b>			<b>298,001,000</b>
<b>【B】 経常費用</b>			
1 事業費			61,986,000
(1) 人件費			
給料手当	47,902,000		
役員報酬	4,200,000		
補助作業員給与	877,000		
退職給付費用			
通勤費	144,000		
法定福利費	8,143,000		
福利厚生費	720,000		
(2) その他経費			133,492,000
売上原価	610,000		
業務委託費	110,000,000		
諸謝金	8,133,000		
印刷製本費	510,000		
会議費	1,745,000		
広告宣伝費	500,000		
旅費交通費	2,665,000		
通信運搬費	474,000		
備品消耗品費	220,000		
貸貸料_会場費	5,960,000		
減価償却	880,000		
研修費	30,000		
支払手数料	1,085,000		
雑費	680,000		
<b>事業費計</b>			<b>195,478,000</b>
2 管理費			31,281,000
(1) 人件費			
給料手当	17,324,000		
役員報酬	7,800,000		
補助作業員給与	1,322,000		
退職給付費用	228,000		
通勤費	56,000		
法定福利費	4,271,000		
福利厚生費	280,000		
(2) その他経費			41,239,000
売上原価			
業務委託費	17,000,000		
諸謝金	0		
印刷製本費	0		
会議費	100,000		
広告宣伝費	0		
旅費交通費	1,950,000		
通信運搬費	3,260,000		
備品消耗品費	920,000		
新聞図書費	30,000		
水道光熱費	150,000		
地代_家賃	4,510,000		
貸貸料_会場費	60,000		
減価償却	2,402,000		
保険料	50,000		
諸会費	800,000		
租税公課	5,000,000		
研修費	500,000		
支払手数料	4,118,000		
支払利息	300,000		
雑費	89,000		
<b>管理費計</b>			<b>72,520,000</b>
<b>経常費用計</b>			<b>267,998,000</b>
<b>当期経常増減額 【A】 - 【B】</b>			<b>30,003,000</b>
<b>【C】 経常外収益</b>			
固定資産売却益			
過年度損益修正益			
<b>経常外収益計</b>			<b>0</b>
<b>【D】 経常外費用</b>			
固定資産売却損			
災害損失			
過年度損益修正損			
<b>経常外費用計</b>			<b>0</b>
<b>当期経常外増減額 【C】 - 【D】</b>			<b>0</b>
<b>税引前当期正味財産増減額 ①+②</b>			<b>30,003,000</b>
法人税、住民税及び事業税			70,000
前期繰越正味財産額			68,087,244
<b>次期繰越正味財産額 ③-④+⑤</b>			<b>98,020,244</b>

## 第7号議案 役員の選任および報酬

### 役員の選任

<任期:2年>

理事候補者(敬称略)

- 浅井 美絵 (フリーランスファンドレイザー) (新任)
- 伊藤 美歩 (有限会社アーツブリッジ 代表)
- 鵜尾 雅隆 (大学院大学至善館 副学長兼教授)
- 鴨崎 貴泰 (合同会社シッカイヤ 代表)
- 岸本 幸子 (公益財団法人パブリックリソース財団 代表理事・専務理事)
- 久津摩 和弘(一般社団法人日本地域福祉ファンドレイジングネットワーク COMMNET 理事長  
/ 全国福祉チャプター代表)
- 黒田 武志 (リネットジャパングループ株式会社 代表取締役社長 グループ CEO)
- 鈴木 栄 (一般社団法人ソーシャル・インバーストメント・パートナーズ 代表理事兼 CEO)
- 徳永 洋子 (ファンドレイジング・ラボ 代表)
- 早瀬 昇 (社会福祉法人 大阪ボランティア協会 理事長)
- 山崎 庸貴 (日本ファンドレイジング協会 東北チャプター / 災害対応チャプター 運営委員)
- 山元 圭太 (合同会社喜代七 代表)

監事候補者(敬称略)

- 相浦 圭太 (税理士法人 TA パートナーズ 代表/DEO)
- 工藤 敦子 (IPAX 総合法律事務所 弁護士/NPOのための弁護士ネットワーク 理事)

<退任>(敬称略)

- 有馬 充美
- 田中 皓

### 役員報酬

2024年度の役員報酬は、年額12,000,000円とする。

以上